

鴨川小学校だより

令和4年5月17日第6号（保護者の皆様へ）

『自己有用感』

「自分のしたことが他の人から認められている。」「他の人の役に立った。」「喜んでもらえた。」このような他人から認められて生まれてくる感情を自己有用感といいます。この“他の人からという視点”が子どもの自信となったり、自分を肯定的に見たりすることにつながります。国立教育政策研究所の資料によると、「自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価」と位置付けられています。自分に対する他者からの評価によって生まれる自己有用感の獲得が自己肯定感（自分には良いところがあると自分自身を肯定的に評価する気持ち）を高めることにつながると言われています。

もちろん、小学生は1年生から6年生まで年齢の幅が大きいので、同じような関わりをするわけにはいきませんが、親や周りの人が、大事に思っているということやあなたがいることが幸せだというメッセージを送り続けることで、子どもたちの自己有用感は育つのではないのでしょうか。



自己有用感は、人と人とのつながりの中で、とてもプラスになる感情です。自己有用感は、生きる力につながります。誰かに認められることは、子どものみならず、大人でも嬉しいものです。誰かの役に立っているとか、自分が必要とされているとかを感じる場面があれば、意欲がわいてきます。「よくやってくれたね。」「いつもありがとう。」といった言葉やメモだけでも元気が出ます。お互いに相手の存在の大切さを認める言葉かけを増やしていきたいものです。

※PTA リサイクル活動では、大変お世話になりありがとうございました。

※リサイクル活動終了後、PTA 役員会を行いました。役員の皆様ありがとうございました。その会において、今年度の地区水泳について協議いただき、感染防止対策の観点から、今年度の地区水泳は中止することとなりました。

※全市的な行事について、昨年度、以下のように決定いたしました。

これまで市内5・6年生が参加して実施していた水泳交歓会に関しまして、コロナ禍による水泳の授業時間確保の難しさ等の理由により、令和4年度以降実施しないこととなりました。それにより、夏季休業中の水泳教室も行わないこととなりました。